

仕事が楽しい人 F i l e . 3 7 : 田中章浩さん (歯科医師)



◆奥様から「どうやって治療しているの?」と言われる歯医者さん
田中さんが、西麻布に歯科診療所を開業して21年。
すっかり地域に溶け込み、歯科治療に当たっています。
田中さんが歯科医師を目指したのは、
第一にお父様の影響、
第二に、お義母様の後押しがあったから、
なのだそうです。

お父様は開業医を営まれ、物心がついたころから田中さんは、自分は将来医者になるのだと、心に決めていました。

そして、大学を受験する年齢になり、何科の医師になるのかを思案していると、当時交際していた彼女 (今の奥様) のお母様から、

「章浩君は、歯医者に向いているんじゃない」と言われたのだそうです。

田中さんは、歯学部と医学部を併願して受験していたのですが、このお母様の一言と、歯学部に特待生で合格できたことも重なり、歯学の道を選択しました。

田中さんに、

「お義母様は、なぜ歯医者に向いているとおっしゃったのですかね」

と、尋ねると、

田中さんは、

「そうですね、あまり深く考えたことはなかったのですが、歯医者は、患者さんに笑顔で帰ってもらえる仕事だからですかね」

私が不思議そうな顔をしていると、田中さんは、

「歯の治療は、痛みが取れたとか、噛み合わせがよくなったというように、治療前の症状の改善が明確ですよ。ですから、患者さんは、治療が終わると、必ず笑顔を返してくれるんです。」

「そもそも私は人と談笑するのが大好きなので、お義母さんは、私に歯医者に向いているとってくれたのかなと思います」

と、説明してくれました。

田中さんが治療で拘っているのは、患者さんとの距離を縮めること。

具体的には、治療の時に教えてもらったプライベートな情報を記録して、治療前に必ずこの情報を確認しています。

患者さんとは、

孫が誕生した

子どもの進学について

クリスマスプレゼントの相談

誰かいい人はいないかとの恋人候補の紹介依頼

というように、多方面にわたるプライベートな話をするのだそうです。

田中さんは、

「昨日も、アイスランドへ行った患者さんからオーロラの話を知り、その美しさに魅了されたので、帰宅して家内にこの話をする時、『あなたは、どうやって治療をしているの』と突っ込まれちゃったんですよ」

と頭をかきながら、患者さんとのエピソードを話してくれました。

3分診療とは程遠い田中さんの姿が垣間見られて、私も思わず微笑んでしまいました。

田中さんの心温まる診療について、「田中さんが目指す『心も癒す診療所』」の欄でご紹介します。

◆田中さんが大切にしているキーワード

癒し

歯医者は怖いという印象を多くの人（特に子ども）が持っているのをそれを払しょくするように努め、心も癒す診療所を目指しています。

◆田中さんのパワー○○

拡大鏡を身に着けること

朝、診療所に到着して拡大鏡を身に着けると、「今日も一日張り切っていこう」というスイッチが入ります。

◆田中さんが目指す『心も癒す診療所』

田中さんから歯科治療の技術的な拘りや、苦労話も教えていただいたのですが、専門性が高く、素人の私ではうまく説明できないため、私が最も感動したエピソードをご紹介します。

ある時、ある患者さんに次回の治療の日を提示すると、患者さんが、どうしてもこの日に治療を受けたいとやってきました。

理由を何気なく尋ねると、この日は、患者さんの誕生日だとわかりました。

この患者さんは、年齢が40歳ほどの男性で、歯のメンテナンス治療を定期的に受けに来ています。

患者さんは、せっかくなのでこの機会に、治療を受けたいと申し出てきたのです。

自分の誕生日に歯科治療を希望する患者さんは珍しいと思い、率直にそう尋ねると、田中さんは、

「こちらの患者さんはダウン症で、うちの医院をすごく気に入ってくれているんですよ。珍しいといえば、確かにそうかもしれませんが、素直に感情を表されるので、我々スタッフも、この患者さんの大ファンなんですよ」

と、答えました。

私は、少々失礼な質問をしてしまったなと思いつつも、誕生日の日に来院されて、どうなったのかの興味を抑えきれず、この時の様子を教えてくださいました。

「たいしたことは、何もしていません。有線のBGMを切り替えて、診療台に座っている患者さんに向かって、全スタッフでハッピーバースデーを歌いました。嬉しいことに、他の患者さんも一緒に歌ってくれました。もちろん、こんなことをしたのは初めてです。自分の誕生日を、診療所で迎えたいなんていわれたら、このくらいのことはして差し上げたくなりますよね。

患者さんは、とても喜んでくれたので、やってよかったです。」

みなさん、こんな歯科医院を見たことがありますか？

飲食店ではお客様の誕生日をお祝いする光景を、ちょくちょく目にしますが、

田中さんの仕事は、歯科医師。

ビックリしたのと同時に、心が温かくなりました。

歯科医院の収益は、定められた診療時間に治療する患者の人数で決まります。

したがって、収益を上げるには、なるべく短い時間で治療をする。
これがセオリーです。

しかし、田中さんは、その真逆の対応をしています。
奥様から、「どうやって治療しているの？」と質問されるくらい、
患者さんと話し込んだりする治療っていったい何なんだろうと、
私は、考え込んでしまいました。

患者さんから話を訊くということは、すなわち、患者さんが口を動かすということ。
とすると、患部にさわれないので、治療行為はできません。
だんだんと頭が混乱してきたので、田中さんに、治療方針を確認しました。
田中さんから出た答えは、

「心も癒す治療」

田中さんは、この方針を次のように解説してくれました。

「時々、治療中に寝てしまう患者さんがいます。
私は、こういう治療を理想にしているんですよ。
だって、眠ってしまうということは、患者さんが、我々を本当に信頼してくれている証で
すからね」

治療の前の患者さんは我々に、症状にとどまらず色々な話をしてくれ、
治療がはじまると患者さんは、我々に身をゆだねて寝てしまう。
田中さんが目指している医療行為は、こういうことなんだと、私は合点がいきました。

追記

偶然なのですが、私が、当月掲載したコンサルタントコラムに、
母が脳腫瘍の除去手術を受けた時に体験した、「笑顔の力」についてまとめました。
まさに、田中さんの治療方針と合致する事例なので、合わせてお読みください。

[\(http://www.h-mbo.com/category/specialist/column_hirabori/\)](http://www.h-mbo.com/category/specialist/column_hirabori/)

◆田中さんのプロフィール

職業：歯科医師

所属：田中歯科西麻布診療所

◆歯科医師とは？

(13歳からのハローワーク公式サイトに掲載されている村上龍氏の解説を抜粋しました)

さまざまな器具や薬品を使って、虫歯や歯周病の治療や歯列矯正など、歯に関わるすべての医療業務を行う。文部科学大臣に認定された6年制の大学を、正規の歯学課程を修めて卒業したうえで歯科医師国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けることが必要。その後、数年間の臨床研修を行い、自分の技術に自信が持てるようになってはじめて歯科医療を行う。近年では、単に歯を治療するだけにとどまらず、より歯を美しく見せたいという需要も増加しているなど、歯科治療を取り巻く環境は変わりつつある。また、その技術は日々進歩しており、つねに学習をしようという意欲が不可欠。現在、歯科医師は飽和状態になりつつあるが、信頼に足る歯科医師は多くはない。確かな技術と知識を持って、患者の気持ちになりながら治療を行えることが、歯科医師として成功する重要な要素である。

◆歯科医に求められる能力

損得度外視：損得（儲け）で医療行為をしない信念

訊く力：人の話を、質問しながら、詳しく聴き取る力

好奇心：どんな話題にも関心を持つ姿勢

ホスピタリティー：歯の外科的な治療にとどまらず、心も癒す対応

専門技術：日進月歩する歯科技術を吸収し、磨き続ける努力